

平成24年第1回（3月）上越市議会定例会

厚生常任委員会資料【所管事務調査】

保育園の再配置等に係る計画（案）の骨子について	・・・・・・・・	1
保育園の再配置等に係る計画（案）	・・・・・・・・	別冊

所管委員会	厚生常任委員会
提出課	保育課

保育園の再配置等に係る計画（案）の骨子

1 現状と課題（2～9 頁）

- ・ 建築後の経過年数が 30 年以上の木造園舎は、20 園。
- ・ 年少人口（0～14 歳）は、平成 22 年に対し、平成 37 年で 23.6%減と推計。
- ・ 現状のままでは、今後の児童数の減少が公立私立とも安定的な運営の維持に大きな課題となる。
- ・ 保育の質の向上を図るには、正規保育士が一定数配置されている必要がある。
- ・ 平成 27 年度以降の深刻な財源不足。
- ・ それぞれの保育園において、より質の高い保育を持続していくには、公立保育園と私立保育園がバランスよく配置された共存できる環境の中で、公立私立を問わず保護者の価値観によって特色ある保育を選択できる状況を目指していく必要がある。

2 基本方針

安心して子育てができ、持続可能な保育環境を整える

（10 頁）

施設の老朽化や少子化に伴う児童数の減少、今後想定される厳しい財政状況等を考えると、現状のまま改築や新築を行い、保育環境を維持していくことは困難な状況。

この状況の中において、市民が安心して子育てでき、今後の変化にも対応できる保育環境を整えるため、公立保育園の再配置に取り組み、私立保育園を含め将来も持続可能な保育の受け皿を整えながら、保育園の機能及び質の向上を図る。

3 計画期間（10 頁）

- ・ 平成 23 年度から平成 26 年度まで
（第 4 次行政改革推進計画の「公の施設の見直し」を構成する個別計画の一つとして位置付け）

4 計画推進の考え方（10 頁）

児童数の将来予測や保育園のあり方検討委員会の意見書で示された規模・配置等を踏まえ、保護者をはじめとする地域住民や私立保育園等の意見を伺いながら、民営化の選択も方策の一つとして公立保育園の統廃合・再編に取り組む。

公立保育園数 平成 23 年度 49 園 ⇒ 平成 26 年度 44 園

5 計画推進手法、具体的な取組内容（12～16 頁）

	区分	計画推進の手法	平成 26 年度までの取組内容（実施時期）
①	老朽化している保育園	統合	有間川保育園、長浜保育園、下綱子保育園、桑取保育園の統合（H26）
②	同年齢児による適度な集団生活 が難しい小規模な保育園	廃止、 他の園への統合	下正善寺保育園の廃止（H25.3）
③	保育園施設が構造的に今後も使用 可能で、安定した運営が見込める規模の保育園	民営化	東城保育園（H26）

※ 優先順位（12 頁）

- ・ 統廃合 … 施設整備が伴う統廃合は、上越市立保育園施設整備計画の優先順位に沿って検討
（施設の安全性や児童数の減少などに課題がある場合は、整備計画の優先順位とは別に検討）
- ・ 民営化 … 全園を対象に民営化の可能性を精査し検討（評価基準により選定（14.15 頁））

6 平成 27 年度以降の計画策定に向けた取組（16 頁）

- ・ 市の現状を考えると、平成 27 年度以降も計画的に再配置を進めていく必要がある。
 - ・ 地域性を十分考慮し、保護者をはじめとする地域住民等の意見を伺いながら進める。